

脱炭素かまくら市民会議から 脱炭素社会に向けての意見

2025 年 2 月

脱炭素かまくら市民会議

記念写真



2025 年 1 月 25 日「脱炭素かまくら市民会議」を終えて
参加市民、主催者、専門家、ファシリテーター、事務局スタッフ等集合写真

目 次

I.	はじめに	2
II.	脱炭素かまくら市民会議から脱炭素社会に向けての市民意見	3
	分野1「移動」分野における市民意見	4
	課題1 乗用車を電気自動車(EV)に切り替える	4
	課題2 都市内または近傍地への移動には、鉄道・バスなど公共交通機関を 活用し、公共交通機関を育てる	5
	課題3 買い物等の日常生活に関わる移動は、徒歩・自転車とする	7
	<その他>観光と交通に関わる問題	8
	分野2「住居」分野における市民意見	9
	課題4 自宅を断熱リフォームする	9
	課題5 自宅に太陽光パネルを設置する	10
	課題6 エネルギーを無駄にしないライフスタイル	11
	課題7 自宅の電力を再生可能エネルギーに切り替える	12
	<その他>住まいに関わる脱炭素・省エネ情報の普及	13
	分野3「消費」分野における市民意見	14
	課題8 旬産旬消・地産地消に配慮された食材を購入する	14
	課題9 食品ロスをゼロにする	15
	課題10 衣服・物のリペア・リユース・リサイクル・アップサイクルに取り組む	18
	分野4 分野横断的な取組みに関する市民意見	20
	課題11 脱炭素に関する知識・情報を収集し、行動に結びつける	20
	課題12 町内会を含む地域一体となった取組みの推進	22
III	脱炭素かまくら市民会議の概要	24
	1. 脱炭素かまくら市民会議実行委員会	24
	2. 市民会議の目的	25
	3. 参加者	25
	4. 市民会議の内容	26
	5. 脱炭素かまくら市民会議を支えた方々	27

I. はじめに

人類は、化石エネルギーに支えられて、経済規模を拡大させ、利便性や豊かさを手に入れてきました。しかし現在、国際社会は一転、カーボンニュートラル社会(脱炭素社会)の実現を目標に基本戦略を見直し、その具体化に向けて走り出しました。日本政府も、2021年秋、2050年カーボンニュートラル社会の実現を宣言し、政府のエネルギー及び地球温暖化対策の基本計画を見直し、また今もその見直し強化の作業が進められています。

しかし、脱炭素社会の構築は、こうした国家的見地の挑戦にとどまらず、まちづくり、交通、住まいや食のあり方などの変革といった地域社会・市民を巻き込んだ取組みが何よりも重要です。しかも進むべき道筋は、多様な選択肢の中から答えを選び、実践していかなければなりません。今こそ、私たちは脱炭素社会づくりを自分の問題として強い関心を持ち、目指すべき方向、解決に向けての行動選択などについて議論に参加し、行動に結び付けていきたいものです。

神奈川県は、2023 年度から、脱炭素化に向けた地域版ワークショップを推進しています。脱炭素化に向けた対話の場を市町村・地域社会と連携して地域に設け、市民の脱炭素に関する自分事化を促し、足元での脱炭素行動の具体化・加速化のきっかけとしようとするものです。

この一環として、「脱炭素かまくら市民会議」が開催されました。官学民の専門家等からなる実行委員会を立ち上げ、実行委員会主催として開催しました。市民会議開催の背景には、欧州を中心に世界的に展開されつつある「気候市民会議」の流れがあります。カーボンニュートラル社会実現に向け、市民が集まり話し合い、地域社会で何ができるかを提案していこうという活動です。鎌倉では、この気候市民会議の流れを参考としつつも、あくまでも鎌倉の実態に立脚した鎌倉らしい議論を生み出すよう、工夫を凝らした「鎌倉方式」を模索して開催しました。

今回の鎌倉での気候市民会議の特徴として、①無作為抽出により選ばれた 16 歳～60 歳までの市民によるミニ・パブリックスの構成、②鎌倉の多様性をふまえ5地域(鎌倉、腰越、深沢、大船、玉縄)に着目したグループ討議、③市民による気づき、問題意識、論点の絞り込みを効果的に行うための 10 項目の「脱炭素アクション」を議論の中心に据えたこと、等があげられます。

そして、参加市民の皆様が全4回に渡る市民会議において、複数の専門家による情報提供を受け、脱炭素アクションの自らの実行・検証を行い、市民会議メンバーの様々な組み合わせによる複数回のディスカッションを経て、「脱炭素かまくら」に向けた市民の取組みや地域社会において解決していくべき課題などについてまとめたものが、この「市民意見」です。

「市民意見」を契機に、鎌倉での脱炭素社会の実現に向けて、多くの市民の皆様が関心を深めてくだされば幸甚です。また、鎌倉市におかれましても「鎌倉市環境基本計画」の中間見直し等をはじめ、施策具体化に向けた、市民との更なる対話の入口としてお考え頂ければ有難い限りです。市民・地域社会・行政が一体となった取組みが、益々、前進することを願ってやみません。

最後に、ご参加頂いた市民の皆様をはじめ、本会議の実施・運営にご協力頂いた多くの皆様(神奈川県、鎌倉市、専門家、ファシリテーター、事務局)に、改めて厚く御礼申し上げます。

2025 年 2 月
「脱炭素かまくら市民会議」実行委員会 委員一同

II. 脱炭素かまくら市民会議から、脱炭素社会に向けての市民意見

「脱炭素かまくら市民会議」は、無作為抽出で選ばれた46名の一般の鎌倉市民が主役です。会議は、2024年10月から2025年1月までの間に、全4回開催されました。

市民会議では、参加市民は、まず、専門家・実務者等からの情報提供を通じて、脱炭素社会の実現の必要性や、そのための取組みや行動変容を学びました。そして、市民が生活者として主体的に取り組んでいかなければならない「移動」・「住居」・「消費」の3分野に焦点を当てて、市民同士でじっくりと話し合い、その結果を取りまとめたものが「脱炭素社会に向けての市民意見」です。

「市民意見」は大きく3つから構成されています。

1. 市民自らの行動変容のための取組み
2. 市民の行動変容を支える地域主体(自治会・町内会など地域を担うグループ・コミュニティ、地域に関わる企業、NPO、市民組織等)による取組みに対する働きかけ
3. 行政による市民の行動変容を支えるための施策についての提案

「市民意見」は次ページ以下、12の課題から構成されています。

また、「脱炭素かまくら市民会議」では、市民の地域目線からじっくりと議論を深めていくにあたり、2つの特徴ある市民対話の方法を用いたことに特徴があります。

- (1) 参加市民の方には、対話を開始する前に、生活の中で特に脱炭素につながる「10の脱炭素アクション」の中から2つのアクションについて、自分の生活の中で具体的に行動し、具体的に検討してもらいました。そして、この体験からの気づきを起点にして脱炭素への行動変容について議論を深めてもらいました。「市民提案」は全部で12の課題から構成されていますが、課題1から課題10までは、この10のアクションを出発点として辿り着いた課題です。なお課題11と課題12は、10の課題に共通した課題です。
- (2) 鎌倉市は、特徴の異なる5つの行政地域（鎌倉、腰越、深沢、大船、玉縄）から構成されています。異なる特徴を有した5地域に分かれたグループ討議を実施し、地域性に立脚して脱炭素行動の具体化に関わる克服課題や利点等を共有し、議論を深めてもらいました。この結果、市民からは様々なアイデアや提案が生まれました。

以上のように進められた市民対話を通じて、「脱炭素社会への市民意見」は、「移動」、「住まい」、「消費」の3つの分野を中核として、12の課題、48の市民の取組みと、市民の取組を後押しする取組み、アイデア、仕組みから構成されています。

分野 1「移動」分野における市民意見

課題 1 乗用車を電気自動車(EV)に切り替える

自家用車等を電気自動車(EV)に切り替えていくことの有効性については、市民の理解が徐々に高まっていますが、EV の利便性、脱炭素化の実際の効果、充電等についての関連情報が市民に行き渡っていないことが指摘されました。個人として EV 購入などの行動に踏み切るには、こうした課題を一つひとつ解決していくこと、その情報が市民に届くことが重要であるといった意見が出されました。

市民の取組み 1.

- 自家用車の EV・プラグインハイブリッド車*1 への切り替えを目指す（当面はハイブリッド車も含む）
- 原付バイクから電動バイク*2・電動自転車への転換を行う

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 自動車メーカー、市、コンビニ等の事業者は、協働して充電設備の設置を充実する
- 市は、国に対して、充電スポットの増大に向けた施策の推進を働きかける
- 市は、充電スポットの設置場所等について広く周知する

*1：プラグインハイブリッド車(PHEV) …ハイブリッド車に外部充電機能を加えた車のこと。ハイブリッド車に対して、電気だけで走れる距離が大幅に長くなります

*2：電動バイク…電力でモーターを回して走行するバイクです

市民の取組み 2.

- シェアカーやタクシーの利用に際しては、なるべく EV 車を利用する

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 事業者は、シェアカーに EV 車を増やす
- 事業者と市と連携し、カーシェアを通じて、市民に EV の良さや使い勝手を体験してもらい、意見をもらう
- 関係事業者は、タクシーの EV 化を進める

<関連事項> EV 車についてのメーカー等に対する要望も意見として挙がりました

- EV 性能の向上…1 充電当たりの走行距離、寒冷地・高温化での性能低下をきたさない
- 脱炭素性能の向上…LCA*3 全体での脱炭素の推進
- 充電スポットの増強、充電時間の短縮、充電にかかる費用の低下

*3：LCA…ライフサイクルアセスメント。製品やサービスのライフサイクル全体における環境負荷を定量的に評価する手法。例えば、自動車では、走行時に排出される CO₂にのみ注目するのではなく、自動車の製造段階から利用を経て、廃棄の段階までの全体で CO₂をどれだけ排出しているのかで評価しようとするものです

課題2. 都市内又は近傍地への移動には、鉄道・バスなど公共交通機関を活用し、 公共交通機関を育てる

鎌倉市は周辺の都市と比較して、人口1人当たりの鉄道の駅数が最も多いなど、公共交通に恵まれています。しかし、鎌倉市には斜面や起伏がある地形が多く、また道路が狭く、そしてここに人口の高齢化が加わり、公共交通を利用するのに苦勞の多い、いわゆる「交通不便地域」や「交通弱者」の存在が指摘されました。これらの問題の解決のため、公共交通の利便性の向上、新しいタイプのモビリティの導入などについて議論が交わされました。

市民の取組み 3.

- 日常生活で、公共交通機関(電車・バス)で行ける範囲はなるべく公共交通機関を使う
- 通勤者は、駅までの移動を自家用車ではなく公共交通機関や徒歩に変える

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 事業者は、バス・タクシー等の運行状況のアプリを市民に周知する(全バス停にQRコードを付けるなど)
- 事業者は市民の要望を反映して時刻表とルートを見直しする

具体案

- 都心からの深夜長距離路線の充実、電車のないエリアでのバス運行の充実
- バス利用のメリットを明確にする(例:京急と江ノ電が連携して寺分から藤沢・鎌倉へ共通定期券をつくる)

- 事業者は、市民が公共交通を利用しようとする動機づけを与えるように努力する

具体案

- 公共交通機関で買い物に来た人にポイントを付与したり、景品を渡す
- 電車利用が楽しい、得ををすると思わせるような工夫
(駅メロの導入や、モノレールや江ノ電を利用するとポイントがつくなど)

- 市は、市内での自動車利用者へ負担を課し、公共交通利用の利便性の向上のための財源とする
- 市と交通事業者等は、大船駅にMaaS(マース)^{*4}の導入を図る

^{*4}: MaaS(マース)・・・Mobility as a Service。地域住民等の移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の関連するサービスを組み合わせて、検索・予約・決済等を一括して行うサービスのこと。移動の利便性の向上や地域の課題解決にも資することが期待されています

市民の取組み 4.

- 長期的な視点からも、市、事業者、地域組織等と連携して、交通弱者のいないまちづくりを進める

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市、事業者、地域組織、市民は、自家用車への依存を抑えるため、交通不便な地域でも住民が容易に移動ができるように、コミュニティバスを導入・増強し、代替移動手段(グリーンスローモビリティ(グリスロ)*5、電動トゥクトゥク*6、電動二輪車等)の導入・選択を検討する。その際、高齢者等の交通弱者への対応に配慮すべきであり、大町、二階堂、浄明寺でのグリスロの導入が重要である

具体案

- 市は、事業者、地域組織、市民と連携し、希望する町内会を募るなどして、グリスロのニーズ調査を行い、希望地域で実証実験を行う
 - 事業者はグリスロの体験試乗会などを実施する
 - 事業者は、グリスロの運行のために、リタイアされた方で運転が得意な方にドライバーとして活躍してもらう
- 市は車いすでも移動しやすい道(交通関連施設)を整備する
 - 市は、高齢者の運転免許の返納を奨励し、同時に事業者と連携して、免許を返納した高齢者の移動手段を確保するために、高齢者向けの安全なモビリティを開発する
 - 事業者は、交通弱者の方の移動手段として、人力車の活用を検討する
 - 事業者は自動運転の実証実験をする

*5： グリーンスローモビリティ…時速 20 km未満で公道を走ることができる、カート型もしくはバス型の、電動車を活用した小さな移動サービスをいいます

*6： 電動トゥクトゥク…複数人を乗せることができる三輪バイクで、東南アジアなどで普及しています

市民の取組み 5.

- 自家用車よりも乗り合いなどのシェアサービスを積極的に利用する

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 事業者はシェアサービスを利用するためのスケジュール調整のアプリ開発を、カマコン*7と連携するなどして、進める
- 市民はマンション組合などにカーシェアの導入を勧める
- 事業者は乗り合いのグリスロを導入する（寺分、梶原等：高台で坂が多いエリアに重点をおく）
- 市民はシェアサイクルや乗用車のシェアサービスを積極的に使う。市はシェアサイクルポートの誘致を行う

*7： カマコン…鎌倉市において、まちをよくする活動や、まちの活性化にチャレンジするプロジェクトに対して、アイデアを出し、さらにそれぞれのプロジェクトに実際に参加することで応援しようという趣旨で活動している団体

課題 3. 買い物等の日常生活に関わる移動は、徒歩・自転車とする

徒歩・自転車の利用に関しては、①坂道が多い、②徒歩圏に日用品を扱う店が少ない、③高齢者には厳しい移動が課される等の側面が強調され、そもそも徒歩や自転車利用を後押しするような都市施設の整備が十分ではなく、車に依存せざるを得ない現状を指摘する意見が多く示されました。

市民の取組み 6.

- 買い物において自動車利用をせざるを得ないときには、日用品の購入などは、なるべくまとめ買いを行い、自動車利用頻度を減らす

市民の取組み 7.

- 自転車・徒歩移動できるところで自家用車を使わないよう、時間に余裕を持って行動する

市民の取組み 8.

- 通勤、買い物等の中距離の移動については、マイカーから徒歩・自転車に転換する

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市、関係事業者は連携して駐輪場を整備する。特に、江ノ電とモノレールの駅近に、駐輪場を増やす
- 市は電動アシスト自転車の購入に補助金を出す

市民の取組み 9.

- シェアサイクルの利用を増やす

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市及び事業者は、連携して江ノ電のシェアサイクルの存在を宣伝し、市民に利用を促す
- 事業者はシェアサイクルの返却スペース（例：縦置きに二段重ねにするなど）の改善を行う

市民の取組み 10.

- 買い物はなるべく近くの店を利用する。日頃から身近なところにどんなお店があるのかを把握する
- 買い物に際し、徒歩で持ち運べる量の購入とする

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 事業者はシャッター街になってしまっている商店街を復活させる取組みを行う。市はこの取組みを支援する。当該商店が開業の意思がないときには、希望者に無償での貸与、時間単位での店舗シェアなど、商店街を活性化するために工夫をする

市民の取組み 11.

- 市民は移動による CO₂排出を抑えるため、また健康維持のためにも、歩くこと自体を楽しむ

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市は、市民が歩いて生活しやすくするために、歩道の整備を行う
- 市は、関係事業者等と協働して、歩けば歩くほど得をするような市民の歩行を後押しする仕組みを考える（歩くことでポイントがたまり、ポイントを景品に変えることができるサービスなど）

<関連事項> 自動車の通行を減らす、買い物の仕方を変える

市民の取組み 12.

- 買い物時等の自家用車の利用回数を減らす

具体案

- 食材を生協で共同購入する。配達に置き配サービスを利用する
- 市民は、ネットスーパー、ネットショッピング等の利用に伴う宅配を利用する場合には、必ず受けとるようにして、再配達による自動車の CO₂ を出さないようにする

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 事業者は、市民が車での買い物の回数を減らせるように、CO₂ の排出削減が見通されるなどの条件を満たすときには、ネットスーパーの購入の割引を行う
- 集合住宅の建設・管理者は、配達で置き配ができるスペース、ボックスを配置する
- 事業者(スーパー・コンビニ)は市民に配達サービスをもっと周知する
- 事業者は買い物不便地域に、移動販売を行う

<その他> 観光と交通に関わる問題

移動に関わる CO₂ 排出削減の議論においては、観光に伴う交通問題がしばしば取り上げられました。ここでは観光に伴う交通に関わる市民意見のいくつかを参考までに記します

1. 徒歩や公共交通による観光

- 観光客は、鎌倉市を観光する際は、なるべく徒歩で街を歩く
- 市はインバウンド観光客に鎌倉の「歩く観光」の魅力を伝えられるようにする
- 市と公共交通機関事業者は、公共交通機関の市民優先対応を図る(特に年末年始時における対応)

2. 観光客に起因する自動車対策

- 市は、ロードプライシング^{*8} の導入を継続して検討する
- 市は時間帯によって車の通行止めを行う

3. 抜本的な観光と交通に関わる対策の検討

- 市は、事業者、地域組織、市民と連携して、また専門家の指導を得ながら、観光シーズンや土日祝日に北鎌倉～八幡宮を歩行者天国とすることなどを含め、抜本的な観光交通対策について引き続き検討を進める

^{*8}：ロードプライシング…都市・地域に流入する自動車交通量を抑制することで交通渋滞を解消し、地域住民の居住環境の向上や公共交通の利便性向上等を図ることを目的として、道路の使用に対して直接的に料金を課す制度を言います。特定の道路を対象に料金を徴収する方式や、一定の区域に入ってくる自動車から料金を徴収する方式などがあります。鎌倉市でも「鎌倉ロードプライシング」の導入について検討を継続しています

分野2「住居」分野における市民意見

課題4 自宅を断熱リフォームする

断熱リフォームに関しては、必要性・効果の向上とともに、資金をかけて本格的に実施する以外にも、身近に取り組みができることを知ってもらい、また広く市民で実践していくための意見が多く示されました。また、賃貸住宅への対応の必要性についても言及されています。

市民の取組み 13

- 近所の住民同士で住居の断熱化に関する情報共有を行う

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 情報を得る機会を増やすために、自治会は町内会の回覧板を使って、市民に情報を伝える
- 既に家を建てた、購入した市民が、これからの人に脱炭素化の自身の成功・失敗談を語る

具体案

- 鎌倉市の HP に体験者の声を掲載する、市が関心のある方向けに断熱リフォームなどの検討会を実施する
- 自然に情報が目に入るように、チラシの配布や回覧板での共有を行う

市民の取組み 14

- 一人一人が、断熱の DIY など、住まいの省エネルギー化を身近なできるところから始め、それを自分の周りに広める

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- ホームセンターのお知らせコーナーで「何をすれば CO₂ 排出量や電気使用量が減らせるのか」という、DIY でできる断熱リフォームの情報を伝える
- 工務店などの事業者がワークショップなどで、事例を紹介し、市民が取り組みやすくする
- インテリアショップが断熱 DIY の具体的な方法を発信し、そこにインフルエンサーや鎌倉市民にも「自分でやった DIY」の紹介などをしてもらうなど連携を行う
- 市の広報誌に脱炭素化の実践事例を載せるコーナーを作る

市民の取組み 15

- 住居に手を加えるときは、少しでも脱炭素化に貢献できるものを取り入れる

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 冷蔵庫カーテンや隙間用テープを貼る、LED 電球にするなど、低コストで取り組める省エネや DIY 断熱を自分の家で実践する
- 市はエコ貢献度が高い業者の情報を市民に伝えるようにし、空き家の改修時に補助をする

市民の取組み 16

- 自分たちの判断でリフォームできない賃貸住宅への対応の必要性を発信する

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 賃貸住宅の管理組合は断熱リフォームを推進する（築年数が長年経過しているマンションなどをまとめてリフォームするのはどうか）

課題 5. 自宅に太陽光パネルを設置する

太陽光パネルの設置は、機能から制度、またライフサイクルアセスメントに至るまでの最新の知識を得る必要性と、まずは公共施設や集合住宅での利用促進を後押しする意見が多く示されました。また、地域で購入・設置などの取組みに関する意見も挙げられました。

市民の取組み 17

- 集合賃貸住宅に住む際には、なるべく太陽光パネルが設置されていたり、再生可能エネルギー電力を使用できる物件を選ぶ

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 不動産に関わる事業者は、太陽光パネルの設置で自家発電を行っていたり、再生可能エネルギーの電力契約ができたりするなど、脱炭素化に貢献できる物件を紹介する

市民の取組み 18

- 太陽光パネルの設置に関して、メリットと設置のための費用や制度、そして廃棄、リサイクルに関してなどの知識を学ぶようにする

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 事業者は設置にあたり、機能面での地域特性による懸念を払拭できるように(塩害の影響はないかなど)最新の情報を提供するとともに、設置の仕方をわかりやすく発信する

市民の取組み 19

- 地域で協力して太陽光発電を行う仕組みを構築する

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市民は地域でまとめて太陽光パネル設置を依頼し、設置のためのコストダウンを図る

市民の取組み 20

- 公共施設での太陽光パネルの設置・再生エネルギー利用を後押しする

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市は、公共施設などの供用施設には太陽光パネルを設置する。また、既に設置されている箇所の発電量の広報に努める(例 大船中学校など)
- 市は、これから新しく作られる施設の再生エネルギーの利用を義務化する(例 学校の新校舎など)
- 事業者は、太陽光パネルを設置する際に、鎌倉らしい神社仏閣などの景観を疎外しないよう、設置場所を考慮したり、新しい様式の太陽光パネルの開発動向に着目していく

課題6 エネルギーを無駄にしないライフスタイル

家庭生活における省エネの徹底など、幅広くエネルギーを無駄にしないライフスタイルについて議論を行うとともに、その一環として、間伐材を利用した薪の活用に関しても議論が行われました。

市民の取組み21

- LED 電球の導入のほか、家電の購入時、買い替え時に省エネ家電を選ぶ

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市は、省エネ家電購入の時に補助金を出す

市民の取組み22

- 自宅での冷房や暖房の使用を控えるために、ショッピングセンターや公共施設などを訪れる（ウォームシェア・クールシェアで省エネに貢献する）

市民の取組み23

- 緑豊かな鎌倉の特性を活かし、暖房用化石燃料の代替として、間伐材を使った薪ストーブの使用を検討する（但し、煙突の設置など地域に配慮される形で設定されていることが前提）

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 事業者は、間伐材を提供するなど、持続可能かつ地産地消できる薪利用の仕組みを作る
- 自宅に設置できるのかの客観的な判断材料として、市は設置のガイドラインを作り、必要に応じ設置可能地域を限定するなど制度を整える

課題7 自宅の電力を再生可能エネルギーに切り替える

再生可能エネルギー^{*9}への切り替えにおいては、まず現在の電力の契約状況を知り、再生可能エネルギー契約のプランを知るための取組みと、自治コミュニティの力を活かし、エネルギーの地産地消に取り組むの
はどうかという意見があがりました。

*9：再生可能エネルギー…太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど、自然界で繰り返し利用できるエネルギーのこと

市民の取組み24

- 再生可能エネルギーの電力会社を調べて優先的に選ぶ

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市は、市民が容易に比較検討できるよう、各社のプラン(再生可能エネルギーの比率/値段)を比較できる仕組みを整備する
- 再エネ電気を提供する事業者は、「広報かまくら」や「かまくら LIVE」などで、PR を積極的に行い、市民が知るきっかけをつくる
- 市は、街灯の電力を再生可能エネルギー契約に切り替える

市民の取組み25

- 再生可能エネルギーを選択するときに、その背景も踏まえ判断することができるよう知識をつける
(例：環境破壊をするメガソーラー発電は選ばないなど)

市民の取組み26

- まずは自宅の電気の現状の契約を認識するために、年間の電気量や金額を過去に遡って把握する

市民の取組み27

- 一人一人がエネルギーの生産意識を持つ

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市民は、町内会・自治会で電力会社、NPO などを作る

具体案

- 市内の活用されていないスペースに太陽光パネルの設置や、風力発電などの可能性はないか検討する

<その他> 住まいに関わる脱炭素・省エネ情報の普及

住居分野での本格的な取組みのためには、タイミング(引っ越し、新築、改築など)と予算の兼ね合いがあるため、必要な場面で脱炭素化への暮らしを選択するための学習機会を提供する意見も多く示されました。

市民の取組み 28

➤ 市民は、太陽光パネル、住宅の断熱など、住まいの脱炭素化に関する情報を積極的に取得する。

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

具体案

- 市は、引越しや結婚などの市民のライフステージの変化に伴う役所の手続きの際に、「このように住居を変えるのはどうか？」という脱炭素化の住まいのロールモデルの情報と関連する補助金などの情報を提供する
- 市は住宅メーカーと協働し、断熱化などの住宅環境の改修の必要性はもとより、住宅環境の改修がヒートショック対策になるという、健康へ効果があるということも含めて、市民の住宅への投資を促す
- 市や広告代理店が「脱炭素化の取組みが格好いい」というPRを行い、風潮作りを後押しする
- 市や県が、市民の脱炭素への意識を持ってもらうためのアイデアコンテスト（例：未来の家を描いてもらうなど）を開催し、入賞者にも脱炭素に関する景品をプレゼントする
- 既に脱炭素化したエコな暮らしを実践している市民が、鎌倉ならではの生活スタイルを取り入れつつ、省エネと生活の快適性を両立する生活像(かまくらライフスタイル)をまとめ、発信する

市民の取組み 29

➤ 学校教育の中で住まいの脱炭素化のための知識を学ぶ

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 実際に太陽光パネルの設置をした人に話を聞くなど、実体験を聞く機会を作る
- ワークショップ・イベントや、歌や踊りを取り入れる、漫画形式で伝えるのはどうか
- 小中学校に断熱を体感できる場所を作り、親子で体験する

市民の取組み 30

➤ 脱炭素化について学べる施設に積極的に行き、体験を通じて学ぶ

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 事業者・市や県が連携し、古民家をエコハウス化した宿泊施設を作るなど、鎌倉らしさを活かした脱炭素化した暮らしの体験ができる場を提供する
- エコハウスに関心がある人は、具体的に何をすれば脱炭素につながるかを知るために関連するワークショップに積極的に参加する

分野3「消費」分野における市民意見

課題8 旬産旬消・地産地消に配慮された食材を購入する

市民の取組みを後押しする取組みとして、生産者・事業者の旬産品・地産品を購入しやすい仕組みづくりへの意見が挙げられています。また、地産品の生産量を考え、生産者を増やすための支援をするなど、地産地消のあり方を根本から考える意見が出されています。

市民の取組み31

- できるだけ旬産旬消・地産地消の食品を購入する^{*10}

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市民・市・生産者・事業者は、旬産旬消^{*10}・地産地消が脱炭素にどんなメリットがあるのかをPRする。
- 市・生産者・事業者は協力し、また近隣地域とも連携して、地産地消を進める
- 生産者・事業者は、旬産品・地産品を積極的に販売する(例・鎌倉駅近くにある「レンバイ(連売)^{*11}」)

具体案

- 鎌倉地域以外の地域にも、レンバイ、マルシェ、移動販売、また商店街と協力して地産品を購入できる場を作る
 - 市・市民は、地産品を販売している店がわかるように地図などを作成し、店を応援する
 - 地図を町内会から家庭へ配布する
- 生産者・事業者は、市民が旬産品・地産品を買うことにメリットがあるシステムを作る。また既存のシステムと連携する

具体案

- 旬産品・地産品がわかる表示、買いやすい価格に設定する、ポイント制など
 - 既存のシステムとして、地域コミュニケーション通貨クルッポ^{*12}などと連携する
- 事業者は、地産品であることがわかるように表示の仕方を工夫する

具体案

- 鎌倉ブランド。環境によい食品のマークを第三者機関の協力を得て作り、その意味がわかるように表示する

*10：旬産旬消・・・旬の食材を旬の時期に食べること。環境エコロジーへの貢献を目的としており、省エネルギーやCO₂の排出削減に役立ちます。

*11：レンバイ(連売)・・・鎌倉市農協連即売所のこと。鎌倉市内と横浜市長尾台町の農家が、自分たちで生産した農作物を、自ら販売している直売所です。

*12：クルッポ・・・鎌倉市で利用されているまちのコイン。地域コミュニティ内でポイントとしてのみ使用でき、現金としてもらったり、あげたりすることはできません。店舗やスポット、イベントなどで用意されており、QRコードを読み込むことでコインをもらったり、あげたりすることができます

課題9 食品ロスをゼロにする

食品ロスの問題については、さらに食物を含む物一般の問題として考え、その中で特にプラスチック廃棄物の問題に焦点をあてました。具体的な取組みには、食品ロスを出さない工夫、廃棄物を減らす方法、食と脱炭素に関する意識・情報・教育についての意見が見られました。

市民の取組み32

- 不要な食品を購入しないように買い物の仕方を工夫する

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市民は、必要なものは何か、店に何があるかを調べて買い物に行く（ただし、「できればよいができない」との意見も見られた）
- 市民は、健康な生活習慣に合った食品の量を購入する

具体案

- 健康アプリ^{*13}を活用し、自分と家族の食べるべきものを数量化し、把握する。食べられる量を認識する
- 市民は、買い物でのまとめ買いで、食品を買い過ぎないようにする
- 市は、HP で物を買過ぎないように働きかけ、そのための情報を提供する

*13：健康アプリ…日々の運動、食事、睡眠、カロリー消費等を記録し、健康状態を見える化するアプリのこと

市民の取組み33

- 食物を大切にする実践・習慣を身につける

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 余った食材を有効活用する、食材を無駄にしない調理経験を蓄積する
- 食材を購入するときに、消費期限が近いものから購入する
- 定期的に賞味期限切れを確認する方法を検討する
- 市民・市、事業者は、フードバンク^{*14}、共同冷蔵庫^{*15}を有効活用する

*14：フードバンク…安全に食べられるのに包装の破損や過剰在庫、印字ミスなどの理由で、流通に出すことができない食品を企業などから寄贈してもらい、必要としている施設や団体、困窮世帯に無償で提供する活動

*15：共同冷蔵庫…スーパーなどで残った冷蔵の必要な食品（生野菜、魚、肉など生鮮食品）を共同冷蔵庫に入れ、事前登録している家族（子ども含む）が欲しい食材をアプリで記入し、24時間自由に持ち帰ってよいシステム

市民の取組み34

- 食品ロスを出さないような地域コミュニケーション、フードシェアの場を設ける

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市民、事業者は、地元の子ども食堂と連携し、余った食材を共有することで食品ロスを減らす
- 地域では、お裾分け文化を浸透させ、お裾分けできる関係をつくる

市民の取組み35

- 食品ロスを出さないような意識・情報を共有し、広報・普及を推進する

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市民は、食品ロスと脱炭素の関連を意識する。節約だけでなく、脱炭素の面からも理解を進める
- 市は、家庭などに食品保存、賞味期限、取組みの効果などを情報共有する

具体案

- SNS、広報かまくら、タウン誌、市民講座などで広報、普及する
- 市民は、冷凍してよい食品や適切な保管など、食品を無駄にしない知識を得る

市民の取組み36

- 食と脱炭素化に関するつながりを、幼少期から大人まで学ぶ

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 小中学校では、体験学習を通して、地産地消と脱炭素のつながりを学ぶ

具体案

- 授業で作った米、野菜を給食で食べる日、年1回鎌倉野菜を食べるなどのイベントを行う
- 小中学校や生涯学習機関では、授業や講座で身近な食品ロス問題を取り上げる
- 市や教育委員会は、地元企業などの協力を得て、小中学校の授業や生涯学習の講座で脱炭素に関する体験学習(社会見学など)を実施する
- 市や教育委員会は、小学生に配布する「かまくら」(地域を紹介した冊子)に脱炭素の情報も掲載する。

市民の取組み37

- プラスチックゴミ削減のために、日常生活の中で使い捨てではなく、リユースできるものを使う

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市民は、イベント、商店、商店街と協力し、購入した食べ物を持ち込み容器に入れてもらう
- 観光での食品ロスやプラスチック廃棄物の問題について考える
- 事業者とメーカーは連携し、自販機ではなくマイボトルを利用できるドリンクバーに代えることでペットボトルなど使い捨て容器の使用を減らす

市民の取組み 38

- 家庭からの食品のゴミを減らす

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市は、生ごみ量削減への施策を展開する

具体案

- 市は、生ごみ量が少ない家庭へのメリットがあるよう、サイズ別に価格の異なるゴミ袋有料化制度の継続などを行う
- 地域での取組みにより生ごみ量が減ったことをホームページで PR し、脱炭素に貢献している実感ややる気につなげる

- 市民は、家庭用コンポスト^{*16}の導入を検討する

具体案

- よりエネルギー消費の低い非電動式コンポストの導入も検討する

- 市は、家庭からだけではなく地域での公共利用コンポストの導入を検討する

具体案

- 地域での取組み(回収・活用)がしやすくなるように、コンポストでできた土を活用できる場所・公共施設の斡旋を支援する。

- 市・事業者は、食品リサイクルを促進する

具体案

- 食品廃棄物の飼料化・肥料化、油脂製品に利用、熱回収、減量処理など

*16：コンポスト…日本では主に生ごみから作られる有機肥料を指しています。鎌倉市では、家庭用生ごみ処理機(電動式)の導入を75%、非電動式処理機の購入を90%助成しています。

課題 10 衣服・物のリペア・リユース・リサイクル・アップサイクルに取り組む

3R とアップサイクルは、衣服に重点をおいて議論されましたが、市民意見では衣服以外の物一般に議論の対象を拡大してまとめました。衣服・物は長く使用する必要なものだけを購入し、むやみに捨てない。衣服・物の生産プロセスと脱炭素とのつながりを学ぶなどの取組みが意見として出されました。

市民の取組み 39

- 衣服・物を購入するときに、長く着る・使う必要のあるものだけを購入する

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 衣服・物を購入するときに、何が本当に必要かを考え、衝動買いしない

具体案

- 市の HP で物を買いき過ぎないように働きかけ、そのための情報を提供する

市民の取組み 40

- 消費者としてむやみに衣服・物を捨てないようにする

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市民、地域は、リユースを実施するという意識を定着させ、取組みを持続させる
- 市・事業者は、衣服・物の3R(リペア、リユース、リサイクル)のメリットを明確にする

具体案

- ポイント制を導入する

- 市民、地域、市は、リユースをどのようにするかを発信する。市民は、それらを利用する

具体案

- 事業者は、リサイクルフリマアプリを開発する(ただし、子どものいる家庭は必要との意見と、フリマに出すことを前提に衣服を購入するのは逆効果ではないかとの意見があった)
- 市は、「リユースネットかまくら^{*17}」「雑貨のリユース 資源循環サービス^{*18}」を継続する
- 市・事業者は、衣服・布・物の回収 BOX、リサイクル窓口を設置する
- 市民は、学生服をリサイクルする
- 市民は、大型ショッピングセンターの回収可能な店でリサイクルする
- 市民、事業者は、リサイクルショップを作る
- 地域は、月1回程度、フリーマーケットを行う
- 地域は、服などの売り買いをする環境を整備し、市民は、服を交換できるコミュニティを持つ

- 自治会・町内会を含む地域は、市民バザーとお祭りを組み合わせ、老若男女が集まるイベントを開催し、衣類・物をリユースする

*17 : リユースネットかまくら…家庭にある不用品を有効に活用するために、NPO 法人鎌倉リサイクル推進会議と市が協働事業として、情報提供するシステム

*18 : 雑貨のリユース 資源循環サービス…市は、株式会社 ECOMMIT と協定を締結し、回収ボックスによる雑貨を回収する実証事業を開始しました。これまで製品プラスチックや不燃ごみとして回収、リサイクルしてきた雑貨のリユースを更に進め、循環型社会を推進する取組み

市民の取組み41

- 衣服を長く使い続けるために洋服のリペア技術を身につける

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市民は、洋服や道具のリペア方法を、SNS、広報かまくら、タウン誌、市民講座などで情報共有する
- 市は、リペアの方法を教えてくれる人を集めてコミュニティを作る（シルバー人材センターが主催する）
- 小中学校は、家庭科の授業で衣服のリペアの方法を教える

市民の取組み42

- 小中学校で、児童・生徒と親は、衣服・物がどのようにつくられるか、またその脱炭素との関わりを学ぶ

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 小中学校で、児童・生徒と親は、衣服・物の原材料、生産国、製造工程、デザインなど衣服がどのようにつくられるか、またその脱炭素との関わりについて学ぶ機会を作る
- 衣服・物のリユースについて、小中学校の教育で扱うとともに、地域で親を対象としたワークショップやイベントを行う。

分野4 分野横断的な取組みに関する市民意見

(分野4は、移動・住居・消費の3分野に共通する横断的な課題です。)

課題11 脱炭素に関する知識・情報を収集し、行動に結びつける

脱炭素についての知識・情報に関する取組みは、市民が脱炭素に関心を持ち、情報を集め、市はそれに応じて分かりやすく情報を発信すること、発信にはSNSやインターネットを活用し、誰でも情報交換できるシステムを作ることなど、今後の議論が期待されるテーマです。

市民の取組み43

- 市民は、脱炭素について知識・情報を収集し、学び、行動につなげる

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市は、市民に脱炭素のメリット、気候変動の危機感を伝える
- 市は、情報を生活者(市民)にとってわかりやすく発信する

具体案

- 動画の活用、簡潔にまとめる、情報を分けて発信する、親しみやすく伝わりやすい言い回しにする
- 駅で「移動」、ごみ捨て場やごみ袋で「消費」の分野に関する情報を発信する(情報は更新する)
- 市は、大勢の市民の目に入るところ(公共施設の掲示板など)、出席・参加するような場所(選挙、検診、手続きなど)で情報発信する

- 市は、SNS、ホームページを活用し、市民が脱炭素行動などに関し必要な情報に到達できるようにする

具体案

- 市は、現代の情報収集の主なツールであるSNS(インスタグラム等)を、情報発信の手段にする
- 住まいなど情報の多い分野は、市のホームページで情報発信する
- 市は、脱炭素に関する質問に答えてくれるチャット形式のアプリをつくる
- 市は、より多くの人にネット上の情報にアクセスしてもらうため、紙・その他で情報発信をする

- 市内の小学校は、脱炭素に関する内容を授業の一環にする

- 脱炭素かまくら市民会議に参加した市民は、会議で得た知識を少しでも自分の周囲へ広げる

市民の取組み44

- 市民は脱炭素に関するワークショップや見学ツアーなどに参加して、脱炭素の関心を深め、脱炭素の知識・情報を積極的に増やす。また、市民自ら脱炭素に関するディスカッションの場を積極的に作るようにする

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市は、誰でも気軽に参加できる脱炭素プログラムを開催する(例 リサイクルセンターのワークショップ、ごみ処理場の見学ツアーなど)

市民の取組み45

- 市民は、市・研究者・事業者等と連携して、情報に関するシステムを構築し、誰でも情報交換できる環境をつくる

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

【市民・市・研究者・事業者は連携して】

- 脱炭素の何を知りたいかによって脱炭素の情報にアプローチできるようにする
- ネット上に、また対面で集まり、誰でも脱炭素に関する情報交換ができる場をつくる
- 情報を発信・受信できることがメリット・得になる流れをつくる
- 日常生活で出る CO₂排出量、その他、現状や取組みの効果を数値化、見える化できる指標があれば取り入れる
- 市民の声が文章で掲載されている媒体(新聞など)で情報発信する
- 国・大企業は、脱炭素の情報発信にアクションを起こす(個人レベルでは限界がある)

課題 12 町内会を含む地域一体となった取組みの推進

この取組みでは、地域の様々な立場の人たちが協力し、脱炭素の取組みを進めていくことが目指されています。地域のお祭りやイベント、日常生活での取組み、自治会・町内会の活動や自治会館の活用による取組み、脱炭素に関わる地域の人のつながりを広げるなど、多くのアイデアや意見が出されています。

市民の取組み46

- 市民は、地域一体となって脱炭素に取り組む

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 地域の担い手の人たち(例 自治会・町内会、集合住宅の管理組合、学校、企業、消防団、高齢者の会、氏子会、子供会、自発的なグループ・コミュニティなど)は、協力して「脱炭素かまくら」の実現を進める
- 地域は、お祭りやイベントで脱炭素をアピールする

具体案

- 地域は、祭り、子供会の集まり、BBQ、運動会など年齢によって参加しやすい機会に脱炭素を紹介する
- 地域は、「脱炭素祭り」(交換会・フリーマーケット・発表会・盆踊り)を行い、脱炭素の取組みを広げる
- 地域は、マイ容器試用会、鎌倉野菜を使った試食会、販売会などで脱炭素について紹介する
- 地域は、イベント・お祭りにブース参加して脱炭素について知ってもらう(例: 鎌人いちばなど)

- 市民・地域は、自治会・町内会の活動、自治会館の活用を通じて脱炭素に取り組む

具体案

- 脱炭素の取組みについて自治会・町内会で働きかけを行う(例: 再エネ、EV、太陽光など)
- 町内会から、回覧板で脱炭素の情報を伝える
- お祭り・イベントなどでリユース容器を使う(MEGLOO などを利用)
- 自治体単位でコンポストやシェアサイクルを導入する
- 地域・自治体ごとのごみの削減率をコンテストなどで競う
- 家庭ごとに脱炭素の目標を立て、町内会単位で発表する
- 自治会館をモデルハウスとしてエコハウスにする
- 地域の高齢者が身につけているリペアの技術を伝承する
- フリーマーケットなど脱炭素につながる催しを行う

市民の取組み47

- 市民・地域は、地域の日常生活の中で脱炭素に取り組む

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 市民・地域は、小規模だが、毎日できる取組みに着手し、継続する
- 市民・地域は、着なくなった衣服・物を身近な人たちでリユース・リサイクルする
- 地域は、教育の取組みとして、子ども脱炭素新聞を回覧、発表する

市民の取組み 48

- 市民・地域は、脱炭素に関わる地域の人のつながりを広げる

市民の取組みを後押しする取組み・アイデア・仕組み

- 脱炭素に関するコミュニティに参加している、知っている市民は、周囲の市民に参加の輪を広げる

具体案

- 鎌倉の脱炭素コミュニティについて知ることができるポスターを、学校、マンション、バスに掲示する
- 脱炭素に関わる集まりに神社仏閣の場所を借りる
- 空き地・神社・学校で地域シェア畑をつくり、地産地消、世代交流につなげる
- 高齢者の傾聴ボランティアなどの団体に関わる/連携する
- 今回の市民会議のメンバー有志で団体・グループをつくる

Ⅲ. 脱炭素かまくら市民会議の概要

「脱炭素かまくら市民会議」は、神奈川県令和6年度施策「高校生・地域向け脱炭素普及啓発事業」の一環として行われました。脱炭素社会づくりは、多くの分野・セクターが関わる非常に広い裾野を含めた挑戦を必要とし、また、多様で異なる考え方も受け入れた議論を必要とします。このため、一般の市民による市民会議を開催するに当たっては、公平・公正な企画・運営が何よりも重要であるとの考え方の下、「脱炭素かまくら市民会議実行委員会」を設置し、この会議を主催しました。そして2024年10月から2025年1月まで全4回の会議を開催し、「脱炭素社会」の実現に向けて、推進すべき取組みを意見書としてまとめました。

1. 脱炭素かまくら市民会議実行委員会

「脱炭素かまくら市民会議」を主宰し、参加者、会議進行、結果の集約等の市民会議の企画・実施に関わる重要事項を協議・決定し、市民会議を円滑に運営していくことを目的として、「脱炭素かまくら市民会議実行委員会」を設置しました。実行委員会は、気候変動・脱炭素、まちづくり分野の専門家、実務者、地域組織、鎌倉市民及び鎌倉市職員の9名から構成されています。

「脱炭素かまくら市民会議」実行委員会名簿

役割	氏 名	所 属
委員長	氏川恵次	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 国際社会科学部門教授
副委員長	川口和英	東京都市大学大学院環境情報学研究科都市生活学専攻教授
委員	石野耕也	中央大学名誉教授
	稲田素子	一般社団法人環境政策対話研究所理事
	千田純子	鎌倉市環境部環境政策課次長兼担当課長
	平野理恵	ゴミフェス 532 代表
	藤島節子	かまくら環境保全推進会議委員
	堀田絵里	鎌倉市民
	渡部厚志	公益財団法人 地球環境戦略研究機関 プログラムディレクター

市民会議の主催等

主催	脱炭素かまくら市民会議実行委員会
協力	鎌倉市
事務局	一般社団法人環境政策対話研究所(IDEP)

※ 本事業の企画・運営については、一般社団法人環境政策対話研究所(代表理事 柳下正治)に委託して実施されました。

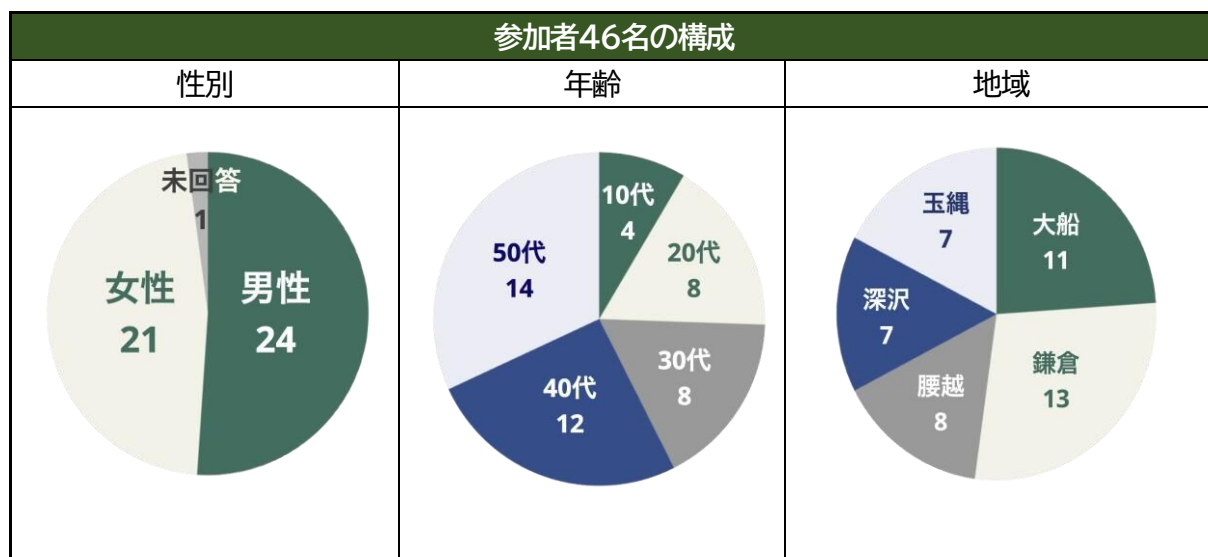
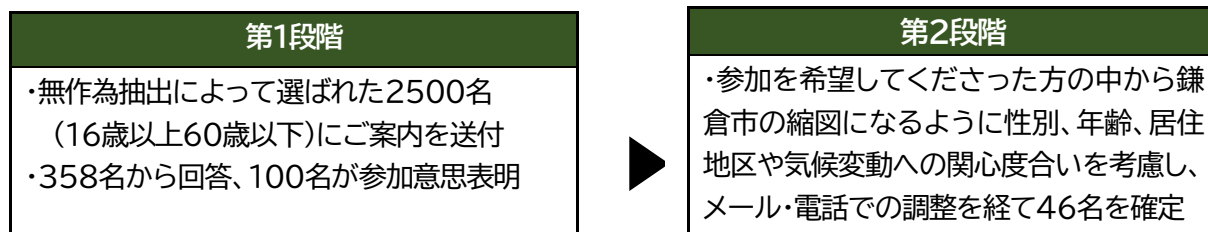
2. 市民会議の目的

この会議では、参加市民の皆さまが、専門家による情報提供やアドバイスを受けながら、鎌倉から脱炭素社会を実現していくための方法について話し合い、その結果を市民意見として取りまとめることを目的として開催しました。そしてその意見を鎌倉市に提出するとともに、地域社会に発信することで、地域における取組みに結びつけていくことを目指しています。

更にこの市民会議が、脱炭素かまくらづくりを目指して地域の市民・事業者・行政の皆様が交流し、取組みを推進していくことのできるプラットフォームづくりにつながっていくことを期待しています。

3. 参加者

鎌倉市の協力を得、住民基本台帳から、無作為抽出によって選ばれた約2500名(16歳以上60歳以下)に対して参加を呼びかけ、応募頂いた方の中から、年齢・性別・地域等に偏りがないようにメールや電話で調整して、最終的に46名の参加者を決定し、ミニ・パブリックス(鎌倉市の縮図)を形成しました。



なお、途中3名の方がそれぞれのご都合で辞退されました。

4. 市民会議の内容

日 程		内 容
第1回	10月19日(土) 13:00～17:00	・ オリエンテーション、顔合わせ ・ 気候変動と脱炭素社会について、鎌倉市の取組みや地域情報の学習 ・ 脱炭素アクションに取り組もう* * 主催者が典型的な脱炭素につながる取組みを10個提示し、参加市民が1人2つずつ分担し、1週間取り組んでいただきました
参加市民が脱炭素アクションに取り組み、気づきを事務局に共有 →事務局がまとめたものを第2回までに参加市民の方に送付		
第2回	11月23日(土) 13:00～17:00	・ 脱炭素アクションの経験を持ち帰り、気づき等を報告・共有 ・ 脱炭素アクションを進めるうえで、考慮すべき地域特性(課題など)をグループで討論
第3回	12月21日(土) 10:00～17:00	・ 移動、住居、消費の3分野について、専門家等による情報提供・問題提起とグループディスカッション
事務局がグループディスカッションを取りまとめ、市民意見(素案)作成 →まとめたものを第4回までに参加市民の方に送付		
第4回	1月25日(土) 13:00～17:00	・ 分野ごとに市民意見(素案)のレビュー(確認) ・ 横断的テーマのディスカッションと追加的テーマに関する情報提供
参加市民有志の方の追加レビューを経て市民意見書の完成 事後アンケート調査の実施		
	3月4日(火)	・ 市民意見の公表 ・ 市民意見の市長への手交
	(予定)3月8日(土)	・ ふりかえり&フォローアップ会議：市民会議全体のふりかえりと、市民意見を実現していくための取組みについての話し合い

会場：湘南鎌倉医療大学

5. 脱炭素かまくら市民会議を支えた方々

【専門家・情報提供者】各テーマにおける議論の情報を提供

第1回

亀山康子	東京大学大学院 教授
浦山友晃	鎌倉市環境政策課 係長
大塚彩美	東京大学 特任研究員

第4回

三重野真代	東京大学公共政策大学院 特任准教授
山木克則	葉山アマモ協議会

第3回

柳下正治	一般社団法人環境政策対話研究所 代表理事
関口 純	江ノ島電鉄株式会社 総務課 課長
三重野真代	東京大学公共政策大学院 特任准教授
川口和英	東京都市大学大学院環境情報学研究科都市生活学専攻 教授
中田理恵	株式会社中田製作所
松田泰弘	神奈川県脱炭素戦略本部室家庭グループ グループリーダー
石野耕也	中央大学名誉教授
渡部厚志	公益財団法人地球環境戦略研究機関 プログラムディレクター
村上千里	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 (NACS)環境委員会、一般社団法人環境政策対話研究所 理事
善積真吾	株式会社カマン代表取締役

【ファシリテーター】会議の進行、参加者の話し合いのサポート

全体ファシリテーター	玄道優子
グループファシリテーター	朝尾直太、河合ゆき、川瀬裕子、川本加奈子、齋藤千夏 鈴木秀顕、鈴木優子、東樹康雅、錦織美夏、原田梨世 平野理恵、山内健、山口恵理
分野別ディスカッション	稲田素子

【記録】

進藤美津子、濱田志穂

【実行委員会事務局】

奥田英道、三河純子、山本かおり、柳下正治、稲田素子、玄道優子

【事務局アドバイザー】

古屋 力、篠田さやか

【会議運営サポート】

富山千紗子、弘茂由子、半田芽吹、植木陽子、表 雅子、岡安眞弓、鎌倉市環境部環境政策課

【託児サービス】

TOKOKORO baby-sitting(第1回)

NPO 法人葉山っ子すくすくパラダイス(第2～4回)

問い合わせ先

脱炭素かまくら市民会議 実行委員会事務局

一般社団法人 環境政策対話研究所

住所：〒215-0021 川崎市麻生区上麻生3-12-11 エスケーハイツ103

電話：044-387-0116 メール：office@inst-dep.com

ホームページ：<http://inst-dep.com>

担当：山本かおり・奥田英道・三河純子